

b j 高松の選手に 児童ら大はしゃぎ 善通寺の病院訪問

プロバスケットボールb jリーグの高松ファイブアローズの選手が25日、善通寺市仙遊町の四国こどもとおとなの医療センターを訪れ、入院中の子どもたちにクリスマスプレゼントを手渡して元気づけた。

訪れたのは、菊池宏之選手やデクスター・ライオンズ選手ら8人。訪問は

子どもたちにプレゼントを手渡す高松ファイブアローズの選手ら＝善通寺市仙遊町、四国こどもとおとなの医療センター



選手らの発案で、自分たちで購入したおもちゃの移動式バスケットゴール3

台とサイン入りボールを贈った。

子どもたちは外国人選手らの背の高さにびっくりしながら「何を食べれば大きくなれるの」などと聞いたり、一緒に写真を撮ったりして大はしゃぎ。前川雄飛君(8)は「元気になったらバスケットボールをしてみたい」とにっこり。東かがわ市出身の池本宗太朗選手は「僕も元気をもらった。試合ではもっと頑張らなきゃ」と話していた。

高松ファイブアローズは30、31の両日、善通寺市金蔵寺町の市民体育館で、新潟アルビレックスBBを迎えてホーム戦を行う。